

第2版 はじめに

本書が生命倫理学のテキストとして刊行され、多くの医療・福祉分野の授業担当者により教科書として採用され、専門・一般教養教育に貢献できたことは、執筆者一同にとって喜ばしいかぎりである。医療・福祉関係の職に従事することを目指す学生にとってはもちろん、それ以外の学問分野の学生にとっても、社会問題としての生命倫理諸課題について考える機会となったものと思われる。各章末の〈問と応答〉は、受講学生の授業への積極的参加を促すことにつながっていることが期待されるので、引き続き活用いただければ幸いである。

初版刊行（2018年）以来、医学・生命科学研究の進展、関連する法律・指針・政策を含めた社会情勢の変化を踏まえて、改訂版の準備を進める中で、2020年初頭からの新型コロナ・ウイルスの世界的大流行がもたらした社会・経済への甚大な影響、医療・介護の現場の苛酷な状況という事態に遭遇した。そこでは、医療資源の配分と対応優先順位をめぐる方針決定、個人の自由・行動制限や集団による規制・強制介入の是非、政策のリスク／ベネフィット比較考量などが問題となった。これらは、従来から問われ続けてきた生命倫理の基本課題と重なるものであり、各章で取り上げるトピックを検討する際に少なからぬ示唆を与えると考えられる。

今回の改訂は、基本的な骨格は維持しつつ、新たな事項を盛り込んで内容のさらなる充実を図った。読者諸氏による意見・批判を仰ぎたいと思う。

2022年1月

霜田 求